



THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

弘前大学附属図書館報 No.37 2013.5

目次

巻頭言 知的財産は誰のものか	1
特集 弘前大学附属図書館	3
本との出会いを楽しむ<第11回>	6
図書館に関する話題<第11回>	7
Library News	8
弘前大学出版会より	10
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	11

知的財産は誰のものか

附属図書館医学部分館長 藏田 潔



10代の頃からインターネット業界で天才プログラマーとして知られたアロン・スワーツ氏が、2013年1月11日、ニューヨーク市内の自宅アパートで自殺しているのが見つかりました。享年26歳でした。彼は「公的な情報は誰もが無料でアクセスできるべき」という主張のもとに、開かれたネット社会を目指す運動を行なっていました。そんな中で彼が2010年にマサチューセッツ工科大学（MIT）の学術論文のデータベースネットに不正アクセス（ハッキング）し大量の記事や論文をダウンロードしたことにより、通信詐欺など約10の罪状で起訴されていました。2013年春から裁判所で公判が始まる予定でしたが、有罪になれば最長35年の禁錮刑が下る可能性もあり、追い詰められて自殺したとみられています。

著作権を有する文書や、個人情報を含む公的な情報などを不正にアクセスすることは違法行為であり、無論、許されるべきではありません。しかし、私達が研究等で有料の電子ジャーナルからPDFファイルをダウンロードしようとする、一件で

何十ドルも課金されることに戸惑いを覚えた方は多いと思います。かつては日本でも主要な学術雑誌は東大や京大だけが購入することを許され、学術情報を独占していた時代がありました。現代ではそのようなことはありません。しかし、お金のある大学は電子ジャーナルを含む学術情報を購入できますが、そうでない大学は購入に大きな制限があるという実態があります。すなわち、情報アクセスの格差が現在も厳然と存在するのです。これは日本国内だけの問題ではなく、世界的な格差の重大問題のひとつとして認識されるべきです。

私は平成18年から約7年間、本学の附属図書館医学部分館長として仕事をさせていただいてきました。この期間の中での大きな出来事のひとつは、雑誌代金の高騰により、それまで購入してきた学術雑誌とその電子版が図書館の予算ではすべてを購入できなくなり、ついには電子版Nature誌の購読を中断せざるを得なくなったことです。Nature誌も読めないような大学は大学ではないというお叱りの言葉も沢山いただきました。

その時に本学の学長をされていた遠藤正彦先生に、このことを何とかしてほしいと、長谷川成一附属図書館長とお願いに上がりました。遠藤前学長は学術情報基盤の整備が極めて重要なことを理解されており、総額で数千万円もかかる電子ジャーナル購入費を全学の予算として計上できるよう学内予算の組み替えを行うと約束していただき、実現されました。このような大きな額の予算の組み替えが行われることは極めて異例のことです。以来、この数年で本学の電子ジャーナルの使い勝手は格段によくなりました。

2012年にiPS細胞の研究でノーベル賞を受賞された山中伸弥教授の受賞インタビューを聞いていましたら、「私達は世界に先駆けて研究を進めて来ましたが、この研究の成果による医療技術が独占されることなく、世界中に安価に提供できるよう、知的財産としての特許を京都大学が取得することは極めて重要です。」という趣旨のことをおっしゃられていました。大学という公的機関が果す

べき役割をあらためて教えられた思いでした。iPS細胞に限らず、大学における研究は文系理系を問わず社会に還元されるべきです。しかし、あらゆる学術研究のために、大学が所属する教員や学生のために学術情報基盤を整備し提供するという役割は、大学が大学として存在するためのもっとも根幹になるものと信じます。

このように、図書館は本を広げて勉強する場という以上の、見えない部分での大きな役割がすでに与えられつつあります。電子ジャーナル以外にも、本学からの学術情報を発信するため、学術情報リポジトリが整備されつつあり、全国の大学の中でも上位にランクされています。また、世の中にタブレット型コンピューターが急速に広まると同時に、そのためのコンテンツも急速に拡充されつつあります。図書館で学生さんに貸し出す本や教材の多くが電子化され、コンピューターやスマートフォンでも読んでいただけるような日が近い将来に必ずやってくるでしょう。

(くらた きよし)

購入雑誌と電子ジャーナル件数の推移

	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度
和雑誌	40	40	39	39	42	42	40	22
洋雑誌	103	103	68	68	68	70	67	50
電子ジャーナル	—	2,687	2,148	3,358	8,542	8,819	11,795	—

和・洋雑誌は、医学部図書館予算で購入した雑誌点数（研究室は含まない）
電子ジャーナルは、その年度最終日（3月31日）の件数

弘前大学電子ジャーナルリストURL

<http://xx6ge5xn4a.search.serialssolutions.com/>（学内専用）

特集 弘前大学附属図書館

今回の特集は、「弘前大学附属図書館」と題して、図書館をご利用頂いております、名誉教授の品川先生に「外からみた弘前大学附属図書館」、また、夜間アルバイトで勤務しております3名の学生に「内側からみた弘前大学図書館」と称して原稿を頂きました。

外から見た弘前大学図書館

弘前大学名誉教授 品川 信良

標記の題でこの度、何かを書くようにと、依頼されましたが、いささか戸まどっています。その理由は2つございます。その第1は、「外から」ということの意味です。それは、「学外者」または「部外者」という意味らしいのですが、さて私のような弘前大学定年退職後の者は、現職の方からみれば、外の部外者かも知れませんが、学外の一般市民などからみれば、立派な「部内者」でもあるからです。その何よりの証拠に、「図書館利用証」を交付して頂きさえすれば、定年後も自由に、現職時代と同じように、弘前大学図書館を利用できるからです。

もう1つの理由は、弘前大学には図書館が、実は2つあるからです。文京町キャンパスの、旧制弘前高校以来の「本館」のほかにもう一つ、本町キャンパスには、「医学部分館」があるからです。言うまでもなく、私が年来深く関わってきたのは後者でした。従って、本館と医学部分館のどちらについての意見や感想を述べればよいのかにも、私はいささか戸まどっています。

そんなことを考えているうちにも、与えられた字数は段々少なくなってゆきますので、日頃何となく考えていることの幾つかを、次に述べさせて頂きます。

その第1は、近年とみに弘前大学図書館はいよいよ整備され、特に一般市民などにも広く利用され始めていることかと思います。但し医学部分館のほうは、医学部の建物のなかの、やや奥まった分りにくいところにあるせいもあってか、一般市民の利用者は、本館よりはまだ少ないようです。

また医学部分館の閲覧室は、本館に較べれば、非常に手狭なことも、医学部分館が利用されにくくなっている、もう1つの理由かと思えます。

第2に申しあげたいことは、利用者のなかには、マナーの余り良くない方が、決して少なくないことです。特に問題なのは、若い学生の利用者です。固いカカトのハイヒールなどの靴をはいて、足音高く入ってくる。そしてドサッと靴をテーブルの上におろし、その中から書籍やノートやコピー用紙などを取り出したかと思うと、紙音高くめぐり続ける若者、特にそういう女子学生が、近年特に多くなってきているように思えます。従って図書館内には、「禁煙」や「飲食禁止」などのほかに、「静粛」という張り紙なども必要かと思えます。

それからもう1つ申しあげるならば、本館の閲覧室入り口などにはいささか、「太宰治色」が強すぎはしまいかと思えます。確かに太宰治氏は旧制弘前高校および青森県が生んだ偉大な文学者であり、優れた作家ではあります。また津軽の名門の出でもありますし、旧制弘高時代は模範生であったかも知れませんが、しかしその生涯には、色々問題無しとは致しません。従って彼を讃え、彼に関する何かを陳列するとしても、もう少し控え目に、奥まった所にするとか、その期限を限るとかしてはいかがなものでしょうか。

そしてその代わりに、現職の方々や、最近お辞めになられたばかりの方々の御著書や業績などを、もっと目立つところに陳列されては如何なものでしょうか。学内各学部などからの刊行物や、太宰治氏以外の弘前大学関係者の出版物などが、奥

まった所に押しこめられてばかり居るというのも問題かと思います。

更にもう1つ申しあげるならば、本館や文京町キャンパスの図書や出版関係の情報が、もっと医学部・本町キャンパスにも流れるように、またその逆も、もっと行われるようにできないものでしょうか。

と言うのは、現職時代に私自身、本館に出入りしたことは殆んどありませんでしたので、文京町キャンパスの方々の御業績などについては、私は

余り存じあげませんでした。その私が定年退職後は、わが家が文京町キャンパスに近いせいもあって、医学部分館よりも足しげく本館にお邪魔するようになり、その本館に所蔵されている、旧制弘高時代以来の、多彩豊富な数多くの資料のほかに、まことに多彩な内外の、数多くの新刊書などにも、私は魅了されつづけているからです。

色々、失礼なことを申しあげましたが、今後とも、呉々もよろしくお願い致します。

(しながわ のぶよし)

図書館カウンターの内側から見えるもの

農学生命科学部 4年 榎引 高志



私は弘前大学附属図書館文京地区で図書館アルバイトをさせていただいて3年目になります。主な業務といたしましては図書の貸出返却作業、書架や新聞の整理、図書の請求依頼の受付、閉館作業などを行うカウンター業務です。また、土曜日や日曜日などのシフトに入った際には図書館の開館作業も行っており、図書館の管理業務に携わっています。今回はこうした業務を通じて私が感じたことを書かせていただきたいと思います。

大学図書館は平日 9:00~22:00、土曜日、日曜日は 10:00~17:00 まで開館しています。図書館を利用される方の利用で多いものは文献の探索、過去の新聞の請求などの資料請求です。私自身は図書館にはレポートの作成に必要な資料を探すためや試験勉強するために利用しています。また、閉館時間ぎりぎりまで試験の勉強、レポートの作成、公務員試験や教員採用試験の対策などをされる方が多数いらっしゃいます。

こうした図書館を利用される方が利用しやすい空間にできるように私自身心がけて業務に当たるようにしております。大学図書館を利用される方は本校の学生だけでなく、一般の市民の方や他大学の大学生の方たちもいらっしゃいます。利用者の年齢層は広く、高校生からご年配の方までと図書館では老若男女を問わず利用される方たちが多

くいらっしゃいます。これは大学の図書館に限った事ではないかもしれませんが多くの方が図書館に足を運び、学ぶという点において年齢差というものは感じられず、学問に真摯に向き合う姿勢を見て私自身も頑張ろうと思いつつも励まされています。

今年大学図書館は長期にわたる改修工事が行われます。これまでも図書館ではパソコンルームの新設工事や文庫・新書コーナー、ラーニングスペース・スクエアの設置工事などを行いました。パソコンルームの新設によりパソコンの台数が増加し、利用される方も増え、資料の調査なども行いやすくなりました。また、ラーニングスペース・スクエアができたことにより学生の方の自習スペースはさらに増え、学生同士の討論、会議、ゼミナールなどが行うことができる場所ができたことによって図書館が情報サービスを提供するという役割だけではなく、コミュニケーションをとれる場所としての役割も果たしていると思えました。

3年間のカウンター業務を通して得られた経験は私自身にとって大きな糧となり、貴重な体験をすることができました。今後も大学図書館が利用者の方々にとって必要となる役割を果たしていくことを願っています。

(くしびき たかし)

図書館カウンター業務に就いて感じたこと

教育学部3年 原口 恭史郎



私は去年から図書館業務の勤務につき、今年で2年目となります。そこで、去年1年間図書館勤務者として感じたことを書かせていただきます。そのためには、まず利用者としての視点から述べていきたいと思います。

学生利用者として、本図書館は数多くの図書を読んだり、パソコンを使ったり、閉館前まで勉強をしたり調べたり、印刷をしたりする場でありませぬ。授業や課題などの調査や学習で、図書やパソコンは必須です。勉強をするのにも、周囲も勉強をする意欲を持って図書館に来ているので、自身もやる気を促されます。相乗効果、切磋琢磨といった関係でしょうか。言うなれば本図書館は学生にとって必要不可欠な学びの場と言えるでしょう。

図書館に対してこのような利用者としての視点から、勤務者としての視点になると、利用者としての視点の一つ先を見つめられるようになりました。それについて述べます。

勤務者の業務の重要な目的は利用者の環境整備です。利用者は色んな方がいます。本をきれいに本棚に戻す人、使い終わった後のイスを整える人、消しゴムの削りカスを律儀にゴミ箱に捨てる人などもいます。また、忙しい人もいるのでしょ、それらの逆の人もいれば館内で飲食をしたり、パソコンの電源をつけたまま帰ったりしてしまう人もいます。

こういった様々な人が利用する環境を整え、使いやすい状態にすることが私たち勤務者の勤めで

す。そのため、掃除したり、本棚の本の並びを整理したり、イスを整えています。また、図書は大切に、多くの人も利用するので本を汚したり、返却期限を延滞したり、図書を汚す恐れがある館内での飲食などに対しては厳しく注意をする立場であります。本図書館の環境はこれらのように多くの配慮によって維持されています。これは図書館利用者の使いやすさを求めたものであり、やりがいでもあります。

また、図書館のカウンターは人と接する重要な場であることをそこで働く立場になって強く実感しました。私がまだ一学年で図書館を利用していた時、知り合いだった先輩が働いている姿をよく見かけました。その先輩はいつも明るく気さくな方で、図書の貸出・返却の際に軽い挨拶を交わすのが心地よいものでした。そこで、私も明るく、笑顔に対応するように心がけています。利用者の人から「ありがとう」と言ってもらえるとやはり嬉しいものです。このように本図書館は勤務者と利用者とのコミュニケーションがあり、学生にとって身近な存在だと考えています。

本図書館は無論学生勤務者だけでなく、職員、大学法人、利用者など多くの人に支えられて利用者が身近で使いやすい環境を保たれています。私は今年もまた勉学の間としてだけでなく、やりがいのある勤務の間として図書館に携わってきたいです。

(はらぐち きょうしろう)

利用者のあたたかさにつれて

医学部3年 佐藤 このみ

私は、附属図書館医学部分館でアルバイトを始めて2年目になりました。休日の開館準備、本の貸し出しや返却などのカウンター業務、閉館時の

片づけが主な仕事です。図書館は、本の貸し出しだけではなく、自習のために通う方も多くいるため、接客業ではありますが、コンビニや飲食店ほ

ど人と関わることはない仕事かもしれません。しかし、カウンター業務をしていて、何度も利用者のあたたかさにふれることができました。まだ私が勤務したての新人だった頃のことです。閉館直前に、貸し出しの方が多く訪れ、カウンターに列ができてしまいました。まだ機械の操作に慣れていなくてあたふたしながら焦っている私に、利用者の方々は「ゆっくりやればいいよ。」「時間あるから大丈夫だよ。」と、温かい声をかけていただきました。ただ見守って待っていてもらえるだけでなく、温かい言葉をかけていただけて、とても安心しました。また、1年経ち、業務にも慣れてから、閉館の予鈴がなった時に、文献が見つからないから手伝ってほしいと声をかけられたことがありました。本のあるべき場所にはなかったため、あきらめかけながら探し、なんとか見つかることができました。すると、次の勤務の時にその方と

またお会いすると、「この間は時間だったのに本を見つけてくれてありがとう。」と、声をかけていただきました。小さなことでも覚えていてくれて声をかけていただけて、とても心が温かくなりました。わたしは週2日の勤務ですが、毎日のように図書館へ通っている方とは、今ではもうお互いに顔を覚えているように感じます。また、利用者だけではなく、図書館の鍵を管理してくれている警備室に鍵を返しに行くとき、いつも警備員さんが「夏休みは帰省したかい?」「今日は寒いから風邪を引かないでね。」と、必ず声をかけてくれます。そんな温かい人に囲まれて図書館で働くことができ、わたしは幸せです。アルバイトをするまでは、図書館は静かで厳粛なイメージでしたが、実際にはもっと気軽に足を運べる場所だったように感じます。これからも、多くの人に図書館を利用してほしいと思います。

(さとう このみ)

本との出会いを楽しむ 第11回

ミステリーを楽しむ

被ばく医療総合研究所教授 柏倉 幾郎



これまでの読書歴を振り返ると、自分は乱読ばりに随分と色々な本を読んできた事を改めて認識しました。その割に余り身になっていないのが問題ではありますが。幼い頃は自宅にあった子供向けの文学全集を繰り返し読んだ記憶があります。そうした中で鮮烈な印象を受けたのが、小学5年生の時図書室から借りて読んだコナン・ドイル著「バスカヴィル家の犬」です。シャーロック・ホームズが登場する推理小説に目覚め、中学に入ると図書室にあった江戸川乱歩シリーズ「怪人二十面相/明智小五郎/少年探偵団」にはまり、その後今に至るまでのミステリーファンです。

浪人時代は、予備校までの片道1時間のバス通の合間に受験対策も兼ね明治以降の日本文学の有名どころはほぼ読破し(受験には役に立ちませんが)、大学時代は海外の推理小説の名作や横溝正史著の「金田一耕助」シリーズを読み漁りま

した。社会人となってからは、江戸川乱歩賞受賞作や年末に発表される週刊文春の「ミステリーベスト10」が、毎年の年末年始の楽しみとなりました。私の場合、その本の世界に没入し、先に読み進みたいがこの時間が終わって欲しくないような矛盾した感覚に囚われる本との出会いが最高です。面白い本は多いのですが、そういった世界にまで誘ってくれる本にはなかなか出会う事が出来ません。最近読んだスティグ・ラーソン著「ミレニアム」は久々の至福の時間となりました。彼の作品は初めてでしたが、既に故人となっていたのが残念です。

また、歴史に興味があるので、史実をもとに作家独自の仮説で物語が展開する作品も好んで読んできました。契機となった作品の1つが高橋克彦著「写楽殺人事件」でしょうか。触発され、他の作家らによる写楽〇〇説も随分と楽しみました。

また何故か遠ざけていた大御所・司馬遼太郎の作品にも没入出来ました。特に心を動かされたのが、高田屋嘉兵衛の一生を描いた「菜の花の沖」や、村田蔵六（後年大村益次郎と改名）の戦いを描いた「花神」です。両名とも江戸末期や幕末の日本を生き、個人的には畏敬の念を感じる人物となりました。入念な下調べと長い年月をかけての著作は想像を絶しますが、当時の国内外の時代的

背景をもとに、歴史と其中で生きた人物を生き生きと浮かび上がらせてくれる様は圧巻です。偉そうな事を言うつもりはありませんが、目指すべき未来は、歴史にその指針が示されており、「坂の上の雲」も含め多くの作品がまさに「温故知新」を感じさせてくれます。

またこの先どんな本に出会い、どのような世界に誘ってくれるか楽しみです。

(かしわくら いくお)

図書館に関する話題 第11回

文学全集への誘い

教育学部講師 仁平 政人



平成二十四年度文系図書整備予算によって、弘前大学附属図書館に多くの文学者の全集が購入された。具体的には、田山花袋・泉鏡花・川端康成・三島由紀夫・遠藤周作・中上健次といった著名な小説家の新版の全集をはじめ、北原白秋・中原中也・西脇順三郎・田村隆一という近現代を代表する詩人達、近年注目を集めている昭和初期の女性作家・尾崎翠、日本における探偵小説の確立者たる江戸川乱歩の全集など。先に本館に収められていた全集・著作集とあわせて、時代・ジャンルともに幅広い文学者の活動に触れられるようになったと言えるだろう。

さて、図書館の利用者の中でも、文学者関係の全集を手にとったことはないという方は多いかもしれない。ここでは、文学全集が持つ面白さや魅力について、簡単な紹介を試みたい。

文学者の全集と一口に言っても、本人が刊行した著作類を中心としたものから、生前未発表の原稿や日記・書簡を収めたものまで、内容は多様である（中でも『決定版 三島由紀夫全集』は、講演・朗読・歌唱など肉声を収めたCDや、本人が制作・監督・主演を務めた映画『憂国』のDVDまで含み、「文学者の全集」というイメージを大きく超えるものとなっている）。ただいづれにせよ、作家の文章を網羅的に集め、その活動の軌跡を余すところなく示してくれるところに、全集の利点はある。

また、全集に収められた草稿や構想メモなどを見るならば、有名な小説がどのように生れたのかという創造のプロセスに触れることも可能だ。以上のような点で、ある作家の世界に深く触れたい読者や、文学に関わる研究を行いたい学生にとっては、全集は豊かな楽しみや知見をもたらしてくれるだろう。



講演・朗読・歌唱など肉声を収めたCD



本人が制作・監督・主演を務めた映画「憂国」のDVD

ただし全集は、マニアックな読者や、研究を目的とする人にとってだけ有意義だという訳ではない。もし気になる作家がいるならば、その作家の全集の一冊を手に取り、目次を見て興味を惹かれる文章をめくるだけでも、様々な発見があるはずだ。例えば、あなたが仮に『川端康成全集』第二十六巻を手を取ったならば、そこで「人造人間讃」という文章と出会うことができるだろう。この作品では、自分の恋人が「人造人間」ではないかと悩む詩人と、その恋人との会話を通して、科学の発達をもたらす「ユートピア」的世界に対する皮

肉に富んだ語りを展開されている。SFという言葉が日本に定着するはるか前に、先駆的で挑発的なロボット文学を書く川端康成——それは、「日本的」・「伝統的」といったこの作家のイメージを容易にひっくり返すものだろう。これは一例に過ぎないが、全集が教えてくれるのは、普段私たちが抱きがちなイメージとは全く異なる部分を持つ、多面体としての作家／文学の姿だ。そのような全集の、また文学の面白さに、少しでも多くの人に触れて頂ければと思う。

(にへい まさと)

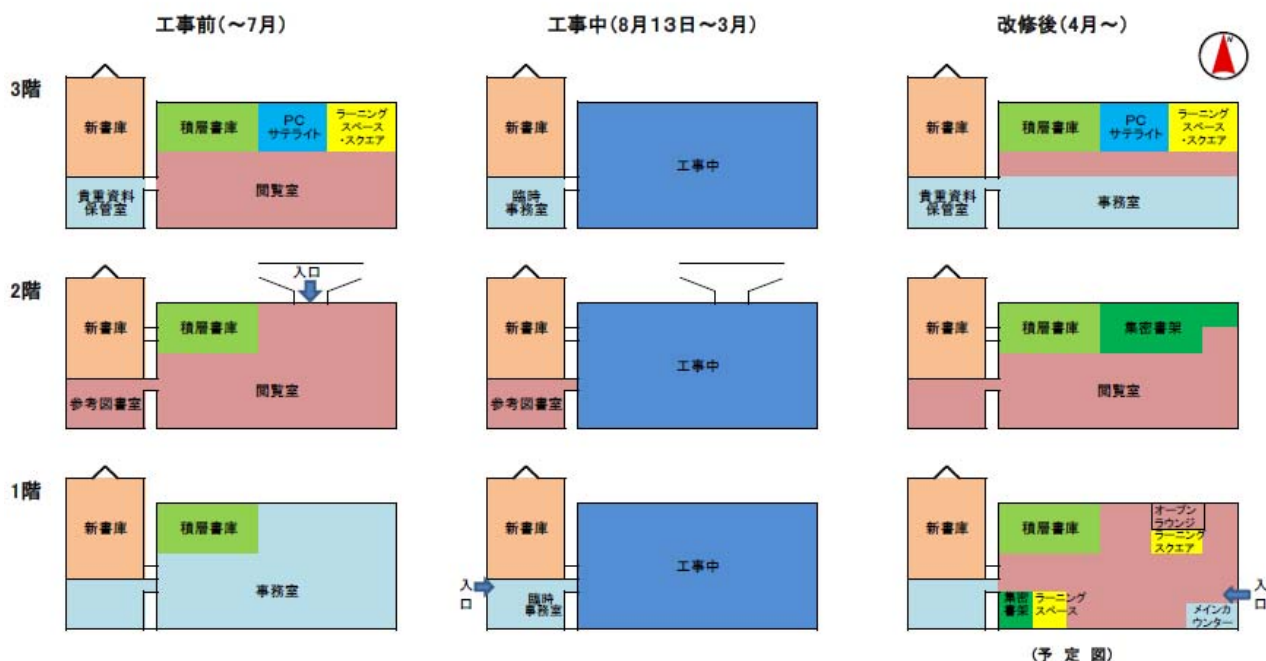
仁平先生にご紹介いただいた「三島由紀夫全集」(全42集)他は、本館で所蔵しています。
所在:本館旧書庫3～5層 請求記号:918.68/Mi53/1 図書ID:08065844 他

Library News

附属図書館(本館旧館)の改修工事について

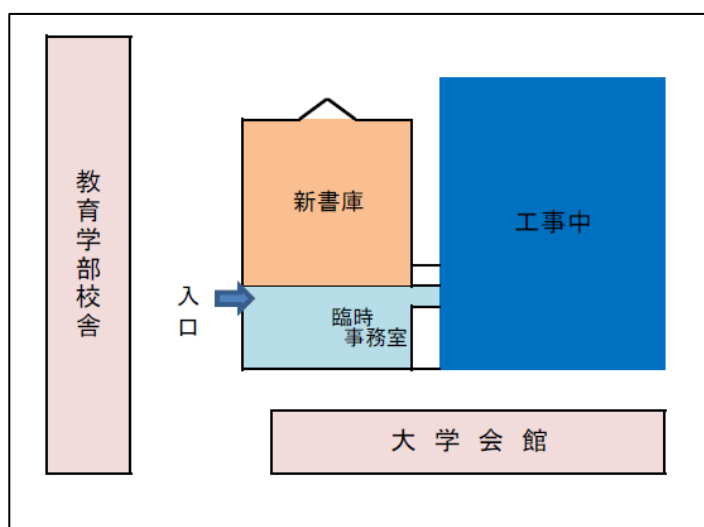
附属図書館(本館旧館)は、平成25年8月13日より、耐震改修工事が行われます。改修後の図書館は、以下のようなことを目的として計画されております。

1. 主体的学習環境の整備充実
2. 安全性に配慮した施設整備とバリアフリー化
3. 書籍増加への対応
4. 職員の効率的な配置
5. 施設整備の有効活用の推進



附属図書館工事日程及び改修工事期間中の図書館サービスについて

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本館(旧館)	開館	休館	休館						
本館(新館)	開館	休館	開館						
	～ 8月12日	8月13日 ～ 9月23日	9月24日	～			3月31日		



改修工事期間中は、9月24日から附属図書館西側新館（教育学部校舎側）で仮開館を行う予定です。メインカウンターは、現在の参考調査カウンターとなります。

また、これまで本館旧館2階にありました開架図書は、本館新書庫内に移動します。利用できない資料等については、主に本館旧書庫内の図書・雑誌ですが、詳細は今後、図書館ホームページ内に順次掲載いたします。

改修工事期間中は、何かとご迷惑をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

◆利用できるサービス

- 1) 貸出・返却・予約・取寄
- 2) 電子的サービス（OPAC・電子ジャーナル・データベース）
- 3) ILLサービス
- 4) 研究室購入資料の受け渡し
- 5) その他 医学部分館は、通常通り開館しております。

◆利用できないサービス

閲覧スペース

- 1) ラーニングスペース・スクエア
- 2) PCサテライト
- 3) 2・3階の閲覧室

図書館資料

- 1) 旧書庫内図書・雑誌
- 2) 新書庫2階2次資料
- 3) 新書庫2階参考図書

弘前大学出版会より新刊紹介

『太宰治直筆ノート複製セット』

弘前大学附属図書館 編



太宰および太宰文学の原点を知る宝庫！

—太宰研究者、太宰文学愛好家へ—

太宰治は、1927年に弘前大学の前身である官立弘前高等学校に入学した。本資料は、そのときの「英語」と「修身」の自筆ノートを忠実に複製したものである。「英語」ノートは大部分が Thomas Babington Baron Macaulay と Charlotte Brontë による著作の日本語訳の口述筆記。「修身」ノートは、修身を受け持った宮城敏夫教授自身が研究し、思うところをみずからの言葉で講義したものと推測される。

2冊のノートには実に多くの落書きがある。その大半は戯画化された肖像画と自己の署名などであるが、太宰治の筆致を如実に見ることができる。英語の授業への生徒達の不満や修身の授業への大正デモクラシーの影響なども読み取れ、当時の太宰をとりまく様子がいきいきと伝わってくる。

本資料は太宰研究の基礎資料であるとともに、昭和初期の官立高等学校においてどのような教育がなされていたかを知る上でも貴重な価値を有するといえよう。

(発行：2013年3月29日/定価12,600円 限定150セット)

『十年間の歩み—弘前大学第十二代学長 遠藤正彦原稿集』

弘前大学学長秘書室 編

弘前大学の遠藤正彦前学長の在任期間は、10年間という長期に及ぶ。この期間は、全国の国立大学が国立大学法人化されたことにより、自主・自律が求められ、他大学との競争が激しさを増すという、歴史的大変革の時期であった。この大変革の中で、学長が様々な原稿を、苦心しながら推敲している姿を直に見てきた歴代秘書6人が、自ら申し出て企画・編集を行ったのが、この原稿集「十年間の歩み」である。秘書達は、遠藤学長が在任中に作成した入学式・卒業式の告辞、式典の式辞、祝辞、挨拶、出版物の巻頭言等、およそ600点に及ぶ原稿の中から、事項、状況などを勘案して項目に分け、約80点を選び出した。その当時の弘前大学の置かれている状況や、法人化によって変わっていく様子が読み取れる、貴重な記録でもある。

この原稿集が、遠藤学長自らが興し育てた弘前大学出版会からの出版であることも、また意義深いことである。

(発行：2013年3月28日/定価4,200円)




本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成24年10月～平成25年3月分受贈分

学部名	寄贈者名	書名	発行所	部数	所蔵先
人文学部	人文学部	EU サブリージョンと東アジア共同体：地域ガバナンス間の国際連携モデル構築	多賀秀敏研究代表(科研費研究成果報告書)	1	本館
		21世紀共成”システム構築を目的とした社会文化的な”島々”の研究	新原道信研究代表(科研費研究成果報告書)	1	本館
		グローバル時代のマルチ・レベル・ガバナンス：EUと東アジアのサブリージョン比較	多賀秀敏研究代表(科研費研究成果報告書)	1	本館
	鈴木和雄	接客サービスの労働過程論	御茶の水書房	1	本館
	関根達人	松前の墓石から見た近世日本	北海道出版企画センター	1	本館
	文化財論講座	弘前市鬼沢鬼神社奉納品の調査報告	弘前大学人文学部文化財論講座	1	本館
教育学部	増田貴人	不器用さのある発達障害の子どもたち運動スキルの支援のためのガイドブック	東京書籍	1	本館
	大谷良光	ネットリスク教育インストラクター講習テキスト 2012年度版	新日本教材社	1	本館
		ねふた・ねふたと津軽の子ども・学校	大谷良光	1	本館
保健学研究科	保健学研究科	弘前大学大学院保健学研究科緊急被ばく医療人材育成プロジェクト：活動成果報告書 平成23年度	弘前大学大学院保健学研究科	1	本館
理工学研究科	吉岡良雄	待ち行列システムとともに：最終まとめ	弘前大学生協同組合	5	本館
農学生命科学部	農学生命科学部	青森の自然・農業と地域振興：農学生命科学部50周年事業報告書	弘前大学農学生命科学部	1	本館
男女共同参画推進室	男女共同参画推進室	弘前大学「つがるネッサンス!地域でつなぐ女性人才」活動記録 平成22年度	弘前大学男女共同参画推進室	1	本館
弘前大学医学部 鵬桜会	鵬桜会 理事長	よく笑う人はなぜ健康なのか	日本経済新聞出版社	1	分館

弘前大学 名誉教授	松木明知	幕末期の医学・医療事情	津軽書房	2	本館 1 分館 1
		A short history of anesthesia in Japan	Hirosaki University Press	2	本館 1 分館 1
弘前大学出版会		白神自然観察園の動物 2 フィールドサイン	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		白神自然観察園のきのこ 1	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		地域の環境と生活の実験演習 2012 年度版	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		基礎物理学実験の手引き 平成 24・25 年度版	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		生きることに責任はあるの か：現象学的倫理学への試 み	弘前大学出版会	2	本館 2
		A short history of anesthesia in Japan	弘前大学出版会	3	本館 1 分館 2
		日英対訳津軽の藍 = Tsugaru indigo	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		トランジスタラジオで学ぶ電 子回路の基礎	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		グローバリゼーションの中 のアジア：新しい分析課題 の提示	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
弘前大学附属 図書館	館長	翻刻太幸治自筆ノート：英 語・修身	弘前大学附属図書館	2	本館
弘前大学生生活協同組合		弘前大学入学記念アルバム 2012	弘前大学生生活協同組合	1	本館

	弘前大学附属図書館報「豊泉」第37号	発行日：平成25年5月31日
	編集／弘前大学附属図書館広報委員会 発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1 TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/	

標題の「豊泉」は、明治9年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、
 松原邦明名誉教授命名 題字：藤原楚水編「書道六體大字典」（三省堂）より